

自然に向き合う五感

森の捜査員のよう

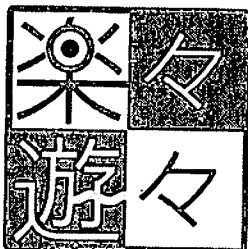
雪の上の足跡、食べ残しの跡。どんな動物がいつ、どこを通ったのか。そんなことを考えながら森の中を観察して歩く「アニマルトラッキング」。雪が舞う北杜市で2月のある日、体験してみた。

(柏原愛)

アニマルトラッキング

朝7時前、朝日がわずかに顔を出し始めたころ、北杜市高根町清里の清泉寮に14人が集まった。気温は0度。案内してくれたのはレンジャーの鳥屋尾健さん(33)とエコインストラクターの研修生石川昌稔さん(23)。

アニマルは「動物」で、ト



ラックは「跡」。動物がいた痕跡を見つけて、分析し、どんな動物かを判断する。例えば、ツメがあって指が4本だったならイヌ科の動物、指が5本ならイタチやテン、指が4本だが、ツメのないのはネコ科の動物、といった具合だ。

清泉寮を出発。雪原と森を巡る歩道を1時間かけて進む。

黒い、コロコロとした球が雪の上に散らばっていた。鹿のフンだ。「雪に覆われていないので、ごく最近のものですね」と鳥屋尾さん。「数時間前に、ここを数頭の鹿が通



●リスがかじった松ぼっくりを手にする参加者。かじった跡は、まだ新しかった雪の上に残された鹿の足跡。足跡探しは、アニマルトラッキングの醍醐味。

今回、参加したのは、北杜市高根町清里にあるキープ協会主催の「アニマルトラッキングツアー」。参加料金は1人500円。キープ協会が指定管理

ツアーは 1人500円
者として運営している県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでは、長靴の貸し出しもしてくれる。問い合わせは、同センター(05551・48・2900)。

っていたんですよ」
森の中へ。細い松ぼっくりが転がっていた。家族で参加した東京都世田谷区の小学1年の和泉彩果さん(7)は「松ぼっくりのエヒフライだ！」と声を上げた。リスが松の種を食べるために、かじった跡

冬から春にかけては、冬眠しないリスやウサギを目撃したり、生えかわって落ちた鹿の角を見つけたたりすることもできるという。

鳥屋尾さんはアニマルトラッキングの魅力について、「跡を見つけて、その中に野生の動物がいたというのを実感できる。においや感触などの五感を使って、自然を見てもらうと記憶に残るし、色々な発見ができる。何よりも楽しんで自然に向き合うことができる」と語った。

人間の足跡もたくさん残っている。子どもの足、大人の足、長靴、運動靴……。いつ、どんな人がここをどんな風にして通ったのか想像しながら歩くと面白い。捜査員のようだ。みんなで上を見たり、下を見たりして、痕跡を探しながら歩いていく。

1頭の鹿の足跡を見つけた。道を横断していた。足跡が深い。「力を入れて踏み込んだようですね」と鳥屋尾さん。中学2年の和泉恭佑君(14)は「足が開いていることや深さによって、力が入って